



# 駿府城公園案内図

## 駿府城公園の歴史

徳川家康（幼名・松平竹千代）は、今川氏の人質として過ごした幼年期、壯年期、晩年の期間を駿府（現静岡市街地）で過ごしました。

天下統一を果たした家康は、將軍職を息子・秀忠に譲り大御所となり、駿府に拠点を置くことを決めます。

慶長12（1607）年、諸国の大名に命じて駿府城の普請を開始し、輪郭式で石垣を廻らせた三重の堀（内側から本丸・二ノ丸・三ノ丸）を持ち、本丸の北西には5層7階の勇壮な天守を配置した城を築城させました。

駿府は、江戸をしのぐ政治・経済・文化の中心として黄金時代を迎えます。

家康の死後、寛永12（1635）年の火災により天守等のほとんどの建物が焼失し、櫓、門等の建物は再建されますが天守は再建されませんでした。以後江戸時代の駿府城は、建物の規模も次第に縮小していきます。

明治時代になると、歩兵34連隊の誘致に伴い本丸堀は埋められ、三ノ丸は官庁や学校などの公共用地となりました。

戦後、本丸、二ノ丸部分は公園として整備され、市民の憩いの場となっています。桜の名所としても知られ、春には数百本の桜が彩り、5月にはあざやかなツツジが楽しめます。

また、東御門・巽櫓、坤櫓が伝統的な木造工法によって復元され、内部では駿府城の絵図や復元資料・出土品などを展示しています。



1 東御門



2 巽櫓



3 坤櫓



4 紅葉山庭園



6 家康公手植のミカン



7 本丸堀(内堀)



8 二ノ丸水路



9 石垣刻印



10 萩の御紋花壇



11 富士見芝生広場

鎌倉時代に中国から渡来した紀州ミカン（コミカン）の一種でホンミカンとも呼ばれており、静岡地方のミカンの起源を知るうえで貴重なもので、県指定天然記念物となっています。

駿府城の三重堀の最も内側の堀です。明治29年に埋められてしましましたが、発掘調査により南東部丈と水路付近が確認され、その姿を現しています。

駿府城には、天下普請を示すような石垣刻印が数多く見られます。特に多く残っています。いくつ探せるかな？

家康薨去400年の節目である平成27年に、徳川家の家紋である萩の御紋がタリュウ白玉砂利伊勢砂利で表現されました。

天気がよく空気が澄んだ日には、広場から雄大な富士山を一望できる富士山のビュースポットです。

5 晩年の家康公像



大御所時代の家康の姿を表した銅像。JR静岡駅前には、「竹千代君像」「壮年期の家康公像」があります。